

飯田・伊那保健所管内の健康状況

自殺に関する統計的考察

田中由嘉里、渡辺庸子（長野県伊那保健所）、中村恵子、佐々木隆一郎（長野県飯田保健所）

要旨：毎年3万人を超える人が自殺で亡くなっており、全国的に問題となっている。2003年における長野県内11保健所別にみた人口10万対の自殺率をみると、飯田保健所管内の自殺率は、二番目に高く、伊那保健所は四番目である。そこで、南信地域の自殺対策の一助とするため、飯田・伊那両保健所管内の自殺の状況を1996年から2005年の10年間の死亡資料を用いて検討をおこなった。管内人口は飯田177,549人、伊那192,751人（平成15年）である。

飯田・伊那保健所管内における、1996年から2000年の5年間（前期）と2001年から2005年の5年間（後期）の自殺数を比較したところ、両保健所管内とも男は前期に比べ増加しており、女は減少していることがわかった。男の自殺について年齢別にみると、飯田保健所管内では青壮年期の自殺が増加しており、伊那保健所管内では壮年期を除いて、自殺者が増加しているという特徴がみられた。今後それぞれの保健所に応じた対策を行う必要があると考えられた。

キーワード：自殺率、死別、離別、青壮年期の男、自殺対策

A. 目的

飯田保健所と伊那保健所管内の自殺者について、性別、年代別、婚姻別に特徴を分析し、自殺対策の手がかりを得ることを目的とする。

B. 方法

① 自殺率の比較検討

2003年長野県衛生年報に示された県内保健所別にみた人口10万対の自殺率の状況を比較検討した。

② 飯田保健所管内自殺者の状況の分析

1996年から2000年の5年間（前期）と2001年から2005年の5年間（後期）の自殺数を死亡小票から把握し、性別、年代別、婚姻別に比較検討した。

③ 伊那保健所管内自殺者の状況の分析

同じ南信地域であり、人口が同じ規模である伊那地域の自殺者の状況について比較検討した。

C. 結果

① 保健所別自殺率の状況（図1）

飯田保健所管内の自殺率は、人口10万対32.7（男49.4、女17.3）と大町保健所について二番目に高かった。

性別にみると、男は大町に次いで二番目、女は長野、上田に続き三番目であった。

一方、伊那保健所管内の自殺率は、人口10万対28.5（男43.7、女14.2）と4番目の頻度であった。性別には、男は四番目、女は7番目であった。

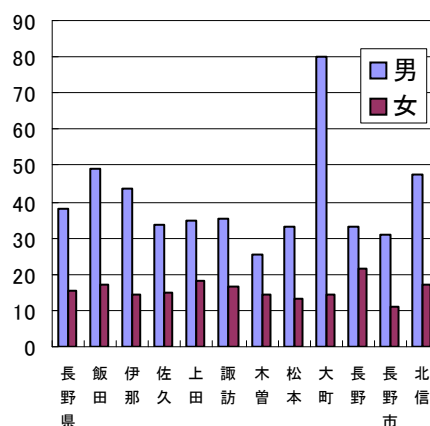


図1. 保健所別自殺率（2003年長野県衛生年報）

② 飯田保健所管内の自殺者の状況

飯田保健所管内では、1996年から2005年の10年間に421人（男302人、女119人）の自殺があり、年平均40人強の自殺があることが分った。

1996年から2000年の5年間（前期）と2001年から2005年の5年間（後期）の自殺数は、それぞれ197人と224人であり、前期に比べ後期では、約13.7%増加しているという結果であった。男女別にみると、男は25.4%増加しているのに対し女は11.1%減少していた。

図2に飯田保健所における前期と後期の性・年齢別の自殺者数を示した。女の減少は、50-79歳の年齢層の減少が寄与していることがわかった。

男では70歳以降の年齢層では減少が見られたが、20歳～69歳の青壮年期では、増加していることが明らかになった。

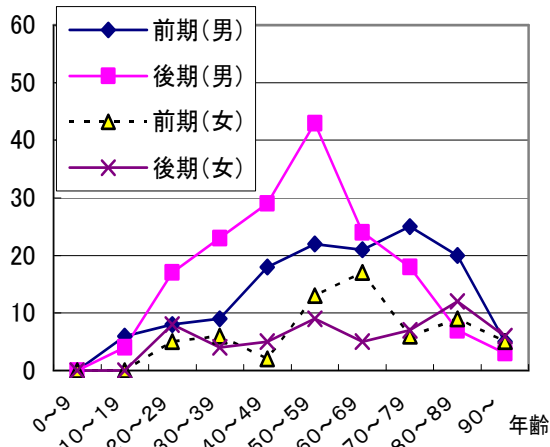


図2 飯田保健所における性・年齢別自殺者数の変化

③飯田保健所管内の性別、婚姻別自殺率の状況

飯田保健所管内の10年間の自殺について、性別、婚姻別（配偶者あり、未婚、死別、離別）に比較を行った（図3）。

配偶者ありの自殺率は、男は人口10万対30.2、女10.3で、男女ともに今回比較した4区分では最も低いことがわかった。男では、離別の自殺率が230.6と最も高く、死別も145.3と高い頻度であった。女では、死別29.3と最も高いが、男で最も低い配偶者ありの自殺率より低いという結果であった。

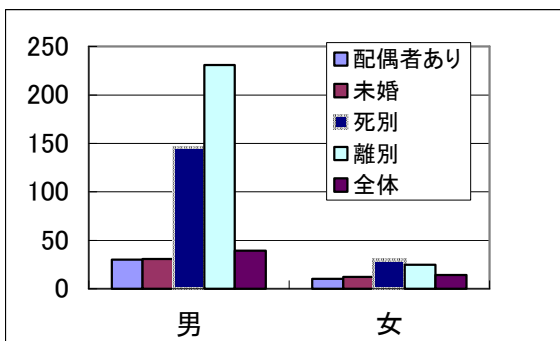


図3 飯田保健所 婚姻別に見みた自殺率 (人口10万対・1996年から2005年)

④伊那保健所管内の自殺の状況（図4）

伊那保健所では、1996年から2005年の10年間に493人（男351人、女142人）の自殺があった。

飯田保健所よりも自殺者は多いが、人口10万人あたりの自殺率は飯田に比べ男女共に低い状況であった。

1996年から2000年の5年間（前期）と2001年から2005年の5年間（後期）の自殺数は、それぞれ240人と253人であり、前期に比べ後期では、約5.1%増加していた。男女別にみると、男は19.1%増加しているのに対し、女は28.9%減少しており、飯田と同じ傾向にあった。また、後期では、20代と50代から80代の男性の自殺者が増加しており、飯田に比べ壮年期の自殺が少ない傾向にあった。

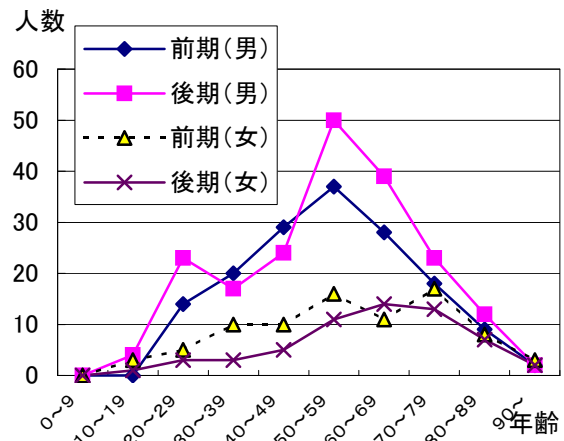


図4 伊那保健所における性・年齢別自殺者数の変化

D. 考察

今回の分析により、飯田及び伊那保健所管内は男の自殺者が増加しており、自殺理由を更に分析する必要があると考えた。

しかしながら、両保健所では年齢別自殺者数の特徴に違いがあり、対策も保健所に応じたものでなくてはならないことが分かった。

飯田保健所管内の分析から、死別、離別した男へのケアが、自殺対策の手がかりになるのではないかと考えられた。

今回の結果を踏まえ、疾病予防にとどまらず、自殺についても健康上の問題として保健所として取り組めるよう、関係機関と連携して対策を講じて行きたいと考えている。